

ひるば

優良公民館紹介

第71回優良公民館(文部科学大臣表彰)

宇佐市宇佐公民館

宇佐公民館 館長 定行 正美

文部科学省から平成30年度の優良公民館として表彰をいただいた。宇佐公民館は平成2年2月に開館。全国に約44,000社ある八幡宮の総本社である宇佐八幡宮の近隣に位置している。

当館は「生きがいのあるくらしやすい地域、生涯学習の創造」を運営基本方針に掲げて、自主的、自発的な意志に基づいた活動を展開している。当館主催の高齢者学級や婦人学級で、健康講座、歴史講座、手芸教室、注連縄作り教室等を実施し地域住民の学習拠点としての機能を果たしている。

市の避難場所にも指定されており地域防災訓練の機会を設け、地域防災活動も積極的に行っている。防災訓練では、近隣の住民が実行委員会を組織し本番さながらに、緊急速報伝達訓練・安否確認訓練・消火器訓練・避難誘導訓練・AED実演訓練・炊き出し訓練等実践的な訓練を行った。今後、公民館が避難場所としての利用だけでなく災害が発生した場合を想定した訓練に関わっていくことは防災意識を高めて行くためにも必要である。



また、地域の伝統文化の継承と地域への愛着の希薄化が課題となる中、当公民館が主催する婦人学級の受講生が「宇佐小唄を踊る会」と連携して地域の伝統芸能の継承活動を行っている。

宇佐小唄は昭和20年代宇佐神宮近隣の住民が盆踊りとして親しんだものである。宇佐神宮の四季を唄い込んだ素敵な小唄であるが時代の変遷の中で地域から遠のいていった現状がある。この「宇佐小唄」を復活させ次世代へ継承する目的で活動しているのが「宇佐小唄を踊る会」である。

毎月の例会で振り付けや所作の確認を行い、小学校の運動会や市内のお祝い事、福祉施設の慰問活動、宇佐神宮の初詣・夏越祭りでの踊り奉納等様々なところで踊りを披露している。例会や、イベント参加後のミーティングで運営や取り組みの再検討を行っており会員のスキルアップにつながっている。

「神宮への奉納は、たくさんの方の参拝者の前で緊張した。」「地域と密着した活動で友達の輪が広がった。」「デイサービス等のボランティア活動で生活に張り合いと元気が出た。」等の意見が得られ地域住民との協働・参画の意識が高まったことがうかがえる。

今後は、この表彰を励みに公民館活動に努力して行きたいと考えている。



公民館関係職員研修会

公民館新任職員研修会

公民館長・主事研修会の様子



公民館関係職員研修会

期日 平成30年5月29日(火)
会場 別府市公会堂

参加者 県内各地の公民館関係者
 (自治公民館を含む)
 及び社会教育関係者等 91名

内容

- 講義「公民館における人権教育」
 講師 県教育庁人権・同和教育課
 主任社会教育主事兼課長補佐(総括) 川野和人氏
- 講義「住民参加と自治をはぐくむ 公民館運営審議会」
 講師 熊本大学教育学部
 准教授 山城千秋氏

○活動報告

「三光地域交流活動

「めざそう! あいさつ世界」運動」

発表者 中津市三光公民館

館長 菊原壮太氏

参加者の声から

- 地域の様々な世代を対象とした人権学習会を開くことが必要だと思った。
- 様々な視点で公民館を見られた。地域をまきこみ、地域に関心をもってもらおう工夫がもつと必要だと思った。

● 今回のような研修会に初めて参加した。様々な社会問題の中で、社会教育の重要性、公民館の役割の重要性を認識するよい機会となった。今後の公民館運営の参考にしたい。

● 「あいさつ」。どこも取り組んでいるが小さな一歩から大きな一歩につながる様子がうかがえた。当たり前のことを当たり前にできるようにすると地域力もUPするだろう。



公民館新任職員研修会

期日 平成30年7月6日(金)
会場 県立図書館

参加者 県内各地の公民館関係者
 (自治公民館を含む)
 (原則任用後3年未満) 58名

内容

- 講義「大分県内公民館の現状と課題」
 テーマ1 「大分県の社会教育行政職員の生涯学習・社会教育に関する意識調査」に見る公民館の現状と課題
 テーマ2 公民館の基礎・基本 (地域活動の拠点としての公民館をめざすために)

○事例発表1

「住民に求められる公民館活動とは」

発表者 臼杵市野津中央公民館

主幹 長田大輔氏

○事例発表2

「佐伯市公民館図書室活性化事業の取組

発表者 佐伯市公民館図書室活性化協議会

事務局長 山本政子氏

副会長 川野敦子氏

佐伯市社会教育課

主任 後藤奈保子氏

参加者の声から

● 午前中の講義は自館の運営の基本理念を構築するのにとっても勉強になりました。

● 午前のテーマ2「基礎・基本」は改めて再意識・再認識化できたので、明日からの館長業務に十分に活かします。

● 災害はいつ発生するかわからないので、事前の準備が大切ということを改めて感じた。事例発表はすごく勉強になった。



公民館長・主事研修会

期日 平成30年8月20日(月)
会場 県立図書館

参加者 県内各地の公民館関係者
 (自治公民館を含む)
 及び社会教育関係者等 56名

内容

- 講義 「人づくりまちづくりにおける 公民館の役割」
 講師 九州大学大学院 人間環境学研究院
 教育学部門 社会教育学 准教授 岡幸江氏
- 演習 「人づくりまちづくりにおける 公民館の役割について考える」
 「利用者にとつての公民館第一印象」
 「公民館ファーストインプレッション」
 指導・助言 九州大学大学院 人間環境学研究院
 教育学部門 社会教育学 准教授 岡幸江氏

○進行

九州大学大学院 人間環境学研究院
 教育学部門 社会教育学 准教授 岡幸江氏

○講評

九州大学大学院 人間環境学研究院
 教育学部門 社会教育学 准教授 岡幸江氏

参加者の声から

● 「行動が次につながる行為を引き出すようにするのが職員の課題である」という事が印象に残っている。一歩でも実現できるようにがんばりたい。

● 公民館の役割、本質など忘れてはいけないことを教わった。午後からのワークショップでは他の市町村の公民館について知ることができ、視野を広げるきっかけとなった。

● 「見在目」から公民館について考えるという視点を今まであまり持っていなかったが、見た目から考えることで利用者についても考えられ、利用しやすい公民館につながると感じた。

● 「見在目」から公民館について考えるという視点を今まであまり持っていなかったが、見た目から考えることで利用者についても考えられ、利用しやすい公民館につながると感じた。



第69回大分県公民館研究大会

佐伯大会

期 日：平成30年10月4日(木)
会 場：佐伯文化会館、三余館

「地域の人材を育成する公民館事業の在り方」をテーマに佐伯文化会館をメイン会場として開催。県内から約300名の公民館関係者が一堂に会した。



分科会の概要(助言・まごめより)

第1分科会 「地域づくり」 テーマ

「地域課題に対応した公民館活動の在り方」

社会教育の役割は地域づくりを担う人づくり。その最前線の場は、まさに公民館である。地域課題、現代的な課題を的確にとらえ、多様な主体と連携・協働した実践発表であった。農業体験などのキャリア教育については、事前の学習、振り返りが重要。防災マップ作りは、自助・共助・公助のうち、お互いに助け合うという共助が大切になる。活動の成果を「見える化」をして示すことも重要。各市町村が策定している総合計画をしっかり把握し、わがまちの公民館で取り組む課題は何なのかを整理して、学習の場、実践の場をつくっていくことが必要である。

第2分科会 「教育の協働」 テーマ

「教育の協働と地域教育力の向上の核となる公民館の在り方」

公民館が核となつて、学校、家庭、地域がつながり、協働するとき、それぞれの課題やニーズを共有して、どうしたら解決できるかという目標に向かって、同じ目線で活動することが大事。公民館を核とした教育の協働、教育力を高める取組には、公民館だからこそできることを大切にすることが必要である。地域の現状を見て感じ、住民のニーズに耳を傾けて、専門的な知識を持った人や地域をよく知る団体

が集まる場所が公民館であることを踏まえ、様々な力をフル活用して教育の協働と地域教育力の核となる公民館づくりが進んでいくことを期待する。

第3分科会 「人権・同和教育の推進」 テーマ

「人権を尊重し、明るい社会づくりに資する公民館の在り方」

人権教育を高年齢者学級や女性講座等と抱き合わせてやっていくことも大事。公民館は様々な団体と連携している中で、そういう団体とつながって開催していけば広がっていく可能性はある。様々な機会をとらえて人権学習を粘り強くやっていくことが大事。人権教育を進める側のリーダーや講師の力量の向上も重要である。人権課題はどんどん増えている。知らない人と差別者になってしまうこともある。だから学びが必要である。人権教育を多くの人々が一緒に進めていく必要がある。

第4分科会 「自治公民館活動」 テーマ

「豊かな地域づくりを担う自治公民館活動の在り方」

自分たちの身近な生活圏の中で、地元の地域資源を活用して、付加価値をつけていくことが重要。「自分たちでできることは自分でやる」という意気込みが地域住民の一体感につながっている。また、インターネット等を活用した積極的な情報発信は、公民館利用者と地域住民や世代間の継続した交流に非常に有効。自治公民館の活動は、地域運営組織の「参加」「協議」「実行」のスキームを通じて大きく広げられる可能性がある。大分県内でコミュニティのネットワークをつくっていくことを今後検討していくが必要。



特別講演

演題 「公民館、これまで&これから」

講師 坂本 登氏

それぞれの地域性を背景にして独自の活動をしているのが公民館。公民館の潮流、戦後の復興と公民館、時代の変化と公民館の教や施設、職員等様々な項目を分析し、公民館の目的を改めて提示。さらに、学習活動と健康やボランティア活動との関連性、社会教育の有用性を住民一人当たりの社会教育費等との関係から、公民館の意義・必要性を明示。



また、大分県での公民館の設置・運営に関する調査、孤立化関連データ、公民館の災害対策、公民館運営審議会の状況等様々な視点から公民館の「今」を考察。総合行政やネットワーク化が進むことによる社会教育のボイダレス化を指摘し、多様化・複層化する社会の中で、どのような役割を担っていくかをそれぞれの公民館が考えていかなければならないことを提言。

期待される公民館像

文部科学省：公民館(日本語版)パンフレット

- ・ 地域住民が社会教育を通して、生涯にわたって強い自発性を持ち続けられるように支援する拠点
- ・ 現代社会が直面する諸問題を、生活レベルの学習を通して解決を促す地域の学習拠点
- ・ 社会教育を通して、信頼感に満ちた互恵的な人間関係の形成を促し、豊かでうるおいある地域を創造していく原動力
- ・ 社会教育施設、学校や家庭、ボランティア団体等と連携協力し、学習環境を形成してゆくコーディネーター
- ・ 世界各国の公民館と連携し、社会教育の発展に貢献する国際的ネットワークの中核機関

これからは宇宙時代。宇宙のモジュールにも「公民館が必要だ」となるようにという願いを最後に表明し講演会を閉じた。

社会情勢、住民ニーズの変化の中で今後の公民館の在り方についての示唆を頂いた。





那覇市で開催された九州地区公民館研究大会。メインテーマは「地域のつながりを支える公民館活動を目指して」である。

一日目は第一分科会の「地域課題に対応した公民館活動の在り方」に参加した。昨今、全国的な課題として「地域のつながりの希薄さ」が取り上げられている。

島原市の発表では、今から28年前、雲仙普賢岳噴火災害により壊滅した地域特産の梅を復興事業のひとつで取り組んでいたところ、担い手不足が深刻な問題となった。

それに対応するため、公民館を拠点とした取り組みの中で、地元中学生が主体となる企画により、剪定作業の片づけ等地域振興の一翼を中学生が担うことで、郷土愛を育みながら地域の学校や団体を巻き込んだ活動へと発展していった。

一般的に地域づくりは大人が主体となっている場合が多い中、中学生が主体という新たな視点で地域づくりに取り組む姿は、「固定概念」とらわれない柔軟な発想の大切さを重く感じた。

このような取り組みは、全国的な課題となっている「地域のつながりの希薄さ」の解消につながるものと考えられる。また、分科会のコーディネートによる締め言葉も印象に残った。

- 「これからの公民館は5つの役割がある」
- ① 幸民館 皆が幸せになる
 - ② 広民館 広く皆さんが集う
 - ③ 考民館 たくさん考えて大いに学ぼう
 - ④ 光民館 集う人がひかり輝こう
 - ⑤ 耕民館 集う人の心も耕し大きく成長しよう

臼杵市教育委員会社会教育課

課長 大戸 敏雄



平成29年7月、日田市大鶴地区は、九州北部豪雨で甚大な災害にあった。大鶴公民館は、当初は100人前後が避難し、2か月余り避難所として活用された。そのような経緯から本大会の第5分科会「防災・防犯教育」の発表者に選ばれ、大鶴公民館が取り組んできた防災対策とこの度の避難所状況等について発表した。

発表するにあたって、当時を振り返り気象状況、避難所対応、地域の災害状況等を詳しく検証し、整理記録できたことは今回の発表のためだけでなく、今後への継承記録ができたことは大きい。

また、昨今、全国的に地震・豪雨・津波等による災害が多いが、発表を機会に避難所となる公民館は、避難所における良好な生活環境確保に向けた取り組みを一層しなければいけないと感じた。本公民館は新築移転し5年目であり、シャワー室や非常用発電機装備等設備等を設置し、かつ今回の避難時には高齢者や授乳児を抱えた家族等を配慮した部屋割りをしたが、後日のアンケート結果から広い避難室には互いのプライバシーを考慮したパーティション設置等の必要性も感じた。

分科会の討議では、この地域は大丈夫という危機感のない方が多く、避難意識を高めるためにはどうすれば良いか等課題が出た。早めの避難、お互いの呼びかけ、防災学習による防災意識向上、「防災」を地域づくりの手段として住民の絆づくりや人づくりを行う等有意義な意見交換ができ、充実した分科会となった。

日田市大鶴公民館

館長 巨山 宣幸

「地区公連発」

豊後高田市、宇佐市、中津市の公民館関係者で構成される本会は、これからの公民館に求められる役割について共通テーマを設定し、各公民館の実践、交流により研究している。

平成29年度から30年度は、メインテーマに「地域住民の幸せを見守り育む公民館」、サブテーマに「住民の健康と高齢者の生きがいの場をつくる公民館活動」を掲げ、研究を推進してきた。サブテーマについては、研究推進委員会の中で協議され、2年毎に変えている。

今年度は、サブテーマに基づいた研究のまとめの年であり、テーマ設定の理由、2年間の研究の経過、各公民館の事例報告などを一冊の研究報告書にまとめることにしている。

この研究の一環で、平成31年1月29日（火）に中津市今津コミュニティ



ニティーセンターにおいて、

第2回社会教育研究集会を開催した。研究主任からの

テーマの確認と研究の経過、

方向性の説明の後、テーマに沿った中津市の2館

の事例発表を行った。南部公民館からは、公民館の歴史サークルの高齢者が、小学生のジュニア歴史ガイドの育成を通して、やりがいや生きがいを生み出している事例、今津コミュニティセンターからは、高齢者サロンの開催を通して、参加者の健康づくりと支援者の役割感から生まれる生きがいが、地域づくり活動のための人材育成にもなっているという事例が報告された。研究協議では、各市からの事例も紹介され、住民が地域の中で健康な生活ができ、

高齢者が生きがいを持って日々の生活を送ることができるための公民館の役割とは何かを参加者で共有することができた。



中津地区公民館連合会

中津市教育委員会 山本 健吾

別府地区公民館連合会は、別府市、国東市、日出町、姫島村、杵築市の5市町村の公民館で組織し、公民館活動推進のための意見交換や職員員の資質向上を目的とし、先進地視察や研修会などを行っている。

ここ数年は、研修会を行っていないので、本年度の総会では、数年ぶりに館長・主事研修会を開催することとした。

2月12日に日出町中央公民館において、佐賀県在住で子ども支援共同プランナー「塵劫社」代表の高田悦也氏を招聘し、『家庭教育を支援する公民館活動』と題した講演会に35名が参加した。

この講演で、家庭教育の支援を進めていくには、過去に学ぶという観点から、公民館が発足した約70年前の原点に立ち戻るべきことを教示いただいた。

現在、子どもを取り巻く環境は、大きく変わり、家庭の形も大家族から核家族、更に共働き世帯も増加し、家族の繋がりが希薄（時間が無い母親と居場所がない父親）

となつてい

る。1人の子

どもが一人前になるには大人20人

位の愛情が必要で、大

家族の当時は、地域全体が子ども

体が必要で、

に寄り添っていた。

子どもたちに生まれてよかった。生きてよかったという人生を送らせるためには、地域の中に居場所（居心地の良いホッとするとところ）づくりと人（大人）づくりが必要であり、これを実現するには家庭、学校、地域の連携協力が不可欠である。このことは、公民館活動全体にも通じるものだと思われる。この研修が今後の各地域での業務に生かされることを期待している。

当連合会では、今後も研修を重ね地域活動の拠点としての公民館づくりを目指して事業を推進したい。

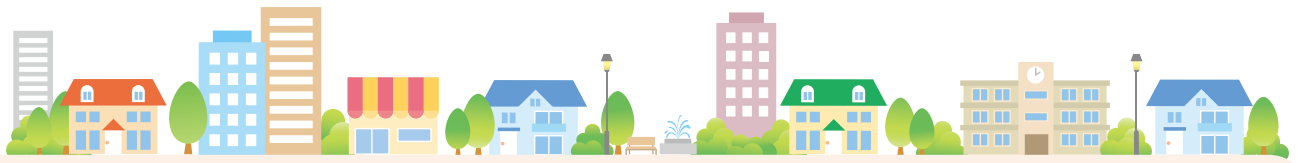


別府地区公民館連合会

事務局長 友岡 政博



わがまち公民館



佐伯市直川地区公民館

佐伯市直川地区公民館
館長 曾宮 郁夫

直川地区は佐伯市の中央部に位置し、平成三十年十二月末の地区人口は二〇八九人、六五歳以上の人口比50・2%、十五歳未満の人口比は6・3%と少子高齢化が進んでいる。

直川地区の特徴は、昭和二十二年に中学校が、昭和三十七年に小学校がそれぞれ統合開校し、早くから一地区一小中学校となったことから、学校教育と社会教育の連携が取り組まれ、地域住民の理解と協力が進んだことである。

直川地区公民館が特に力を入れている活動として「通学合宿事業」が挙げられる。これは、小学校六年生がキャンプ場のバンガローに三泊四日で宿泊し、自分たちで調理・洗濯などをしながら学校に通学する



通学合宿



読み聞かせ活動

事業である。児童の自主性や協働性とともに、事業に協力するボランティアや父母に対する感謝の気持ちを養うことを目的に、平成十三年から毎年実施している。

このほか毎日の交通指導や読み聞かせ活動、お茶摘み体験、田植えや稲刈り体験などを地域と協力しながら実施している。また茶道、ヒップホップダンス、フォークギターなどの「放課後子ども教室」では、地域のお祭りでの成果を披露している。

小学校四年生以上を対象とした「サタデー音楽部」では、海や川での自然体験や史跡探訪、市内他校との交流活動などの学習を実施している。

これらの地域学校協働活動が評価され、平成三十年十二月、直川地区校区ネットワークが文部科学大臣表彰を受賞した。

今後とも、子どもたちが地域の中で豊かな人間性を育み、将来の夢の実現や生き方を考える手助けになるよう、地域の方々と連携しながら地域学校協働活動に取り組んでいきたいと考えている。

九重町東飯田公民館

九重町役場社会教育課
東飯田公民館
公民館主事 菅田 照久

やまいもほりほり

ほったいもほりほり

今回は初の試み小学生対象「やまいもほり体験」を紹介する。

地元の山でできる天然のやまいも（自然薯）掘りを体験し、採れた自然薯を料理して食べることを通して地元への愛着心を養ってもらう。また、地元の大人は皆習ってきたが、今の子どもは習う機会が減っていること（山に行く時の注意点、ふくしの使い方、自然薯



の葉の見つけ方など）について学び、伝統継承の一助となることを目的に平成30年11月25日（日）に実施した。

事前に、地元の大人4名をボランティアスタッフとして確保した。山は所有者の許可をもらった。場所の下見を重ね、つるに印をつけて回った。小学校に定員10名で募集をかけ、1〜6年生7名が集まった。予算は参加費1人あたり100円のみ。それとお米を1人1合持つてきてもらうこととした。

当日は、山で注意点を説明し、ふくしで掘る体験してもらった。また、女子や低学年は周辺にむかご探しに出かけた。最終的にやまいも2本とむかご適量が手に入った。

公民館に持ち帰り、自然薯すりおろし体験をした。こちらは公民館利用団体「脳いきいき広場」メンバーに声をかけ5名に手伝わってもらった。そしてとろろご飯とおかごご飯が完成し、皆でいただいた。

事後アンケートでは「掘るのは疲れたが楽しかった」「するとき手がかゆかった」「おいしくてたまらなかった」などの感想があり、目的がある程度達成できたように感じた。ただ、時期、募集人数、スタッフなど課題も見つかったので、次回につなげたい。

中津市南部公民館

南部校区では、毎年二月下旬から三月上旬にかけて、「中津ひなまつり」を実施してきた。大河ドラマの黒田勘兵衛の流行時には、中津ひなまつりも賑わいを呈していた。しかし、近年、ひなまつりの来場者が減少する傾向にあるため、地域住民は今後のひな祭り運営に危機感を抱くようになった。

そこで、地域の活性化に向けて南部公民館「まちおこし講座」を立ち上げ、『まちなみ歴史探検ウォークラリー』の取組を企画した。活動目的は、中津城周辺をお友達や家族と歩いて、郷土の歴史を発見することである。講座の受講生は、地元住民・中津市まちおこし推進係・小中学校保護者会・中津耶馬溪観光協会・地元企業などである。主な活動内容は、地域スタッフ約五十名によるウォークラリー準備会議と当日の運営である。今年度は各地域より百八十三名もの参加があった。それは、次の視点でリニューアルしたことが要因だと思われる。一つ目は探検コースを広げたこと。二つ目は、校区の児童が歴史ガイドをしたこと。三つ目はスタッフジャンパー着用や登り旗等で周辺の雰囲気盛り上がったことである。その中でも、歴史ガイド育成においては、地域住民の「中津の郷土史を語る会」サークルが、意欲的に児童の指導にあたった。「中津城」と「城下町」についての座学・現地研修・リハーサルを経て、ジュニア歴史ガイドは、三月二日にデビュー



中津城と城下町の学習



3月2日のデビュー

した。そして、ウォークラリーの参加者から称賛の声が上がった。このウォークラリーの波及効果もあって、中津ひなまつり会場周辺も賑わった。

この取組は地域住民が地域課題をしっかりと受け止め、地域の諸団体と連携し、地域力を高めつつある事例と言える。

第30回全国公民館セミナーに参加して

平成31年1月30日～2月1日の3日間にかけて、第30回全国公民館セミナーが開かれた。

地域に向き、会話をしていることが間違いはなかったことを実感することができた。

会場は、「新しい『公民館』をさぐる。」というテーマのもとに大変熱気に包まれていた。

2日目のワークショップでは、地域づくりをしていくうえで、地域の人がどのようなことに関心を持ち、どのような関与をしていくかを考えるという課題を6人から8人程度で考えていくものだった。これによって地域ごとの実態をきちんと把握し、問題解決のPDCAを回し生活に根ざした事業をどのようにして組み立てていくのか考える必要があること、そして、地域住民がいかに運営にかかわってもらえるかを第一に考えなければいけないということが分かった。

「我々既存の公民館は事業を行うことに対して「目的」や「内容」に重きを置いているが、それだけではなく自ら足を運び地域の中に飛びこむ事でその地域に即した「目的」や「内容」を知ることができるといえる」という言葉があった。私たちが受け身ではなくこちらから

これからの公民館は、常に地域の声を反映しながら、よりよい交流の場所となる必要がある。そして「人が自然と集まる公民館」を目指して取り組んでいきたいと思う。今回、このような経験をさせていただいたことに感謝をし、学んだことを実践していきたいと思う。



ワークショップ



トークセッション

大分市南大分公民館

社会教育主事 市川 亨

お知らせ

表彰

大分県公民館連合会表彰

「公民館運営審議会委員表彰」

杵築市中央公民館
公民館運営審議会委員
松樹 英子 氏

杵築市中央公民館
公民館運営審議会副委員長
廣瀬 妙子 氏

杵築市中央公民館
公民館運営審議会委員
船木 晴男 氏

大分市鶴崎公民館
公民館運営審議会委員
園田 和孝 氏

大分市坂ノ市公民館
公民館運営審議会委員
岡田 陽介 氏

「優良職員表彰」

大分市鶴崎公民館
館長
首藤 洋一 氏

大分市神崎校区公民館
館長
矢野 勝也 氏

大分市丹生校区公民館
館長
芝崎 徳人 氏

「勤続職員表彰」

国東市富来地区公民館
前館長
木戸 昌夫 氏

大分市坂ノ市公民館
社会教育主事
田代 恵 氏

大分市小佐井校区公民館
主事
幸 世津子 氏

大分市鶴崎公民館
館長
合澤 陽一 氏

大分市東有田公民館
前館長
松尾 俊明 氏

大分市小野公民館
前館長
吉長 一徳 氏

大分市大山公民館
前館長
ワトソン ロバート 氏

広報コンクール表彰

「公立公民館報の部」

別府市南部地区公民館
「南部地区公民館報 さわかか」
佐伯市直川地区公民館
「直川地区公民館だより」
日田市大鶴公民館
「広報 大鶴」

優良賞

別府市西部地区公民館
「西部地区公民館報」
佐伯市佐伯地区公民館
「佐伯地区公民館だより」

優良賞

「自治公民館報の部」
優良賞
玖珠町玖珠自治会館
「くすぶれ愛だより」
玖珠町森自治会館
「つむれホールだより」
玖珠町八幡自治会館
「やはたさんほーる」

優良賞

別府市鶴見町公民館
「鶴見町自治会公民館だより」
玖珠町北山田自治会館
「みかづきだより」
「ポスター・チラシの部」
優良賞
別府市古市町自治会
「合同慰霊祭供養おどり」
別府市古市町自治会
「津波避難訓練」
大分市植田校区公民館
「バス旅行募集」

平成31年度 事業の予定

大分県公民館連合会関係

諸会議

期日：4月5日(金)
会計監査
場所：大分市(県庁舎)
内容：30年度会計監査
第1理事会
期日：4月10日(水)

場所：大分市 県立図書館
議事：30年度事業報告、31年度事業計画等
総会
期日：5月30日(木)
場所：由布市 庄内公民館
議事：30年度事業報告、31年度事業計画等
第2回理事会
期日：7月25日(木)
場所：大分市
議事：大分県公民館研究会大会、大分県公民館連合会表彰等
各地区公民館連合会会議
期日：随時
場所：県内5箇所
内容：県内5地区で実施
各地区公民館連合会研修会
期日：随時
場所：県内5箇所

研修
大分県公民館関係職員研修会
期日：5月30日(木)
場所：由布市 庄内公民館
大分県公民館テーマ別研修会①
期日：6月25日(火)
場所：県立図書館
大分県公民館テーマ別研修会②
期日：7月17日(水)
場所：県立図書館
第70回大分県公民館研究大会
期日：10月16日(水)
場所：豊後高田市中央公民館他

大分県公民館連合会表彰
期日：10月16日(水)
場所：豊後高田市
※第70回大分県公民館研究大会において表彰
情報提供
機関誌「ひろば」発行
期日：2020年3月
ホームページによる情報収集・提供
期日：随時

九州公民館連合会関係
第1回会長会
期日：4月18日(木)
場所：佐賀県佐賀市
議事：会長等役員選出

第1回理事会
期日：4月18日(木)
場所：佐賀県佐賀市
議事：30年度事業報告・決算報告、31年度事業計画・予算案等
第2回会長会
期日：8月28日(水)
場所：佐賀県佐賀市
議事：九州公民館連合会役員表彰、九州地区公民館研究大会等
第2回理事会
期日：8月28日(水)
場所：佐賀県佐賀市
議事：九州公民館連合会役員表彰、九州地区公民館研究大会等
第41回九州地区公民館研究大会
期日：8月29日(木)～30日(金)
場所：佐賀県佐賀市
第49回九州ブロック 社会教育研究大会佐賀大会
期日：8月29日(木)～30日(金)
場所：佐賀県佐賀市
大会テーマ：「社会教育や公民館の隘路(あいろ)を拓く」がばい つながるー人と人ー
事務担当者会
期日：1月16日(木)
場所：熊本県熊本市
議事：31年度事業報告・決算見込、2020年度事業計画・予算案等

公益社団法人全国公民館連合会関係

総会
期日：6月4日(火)
場所：東京都
議事：30年度事業報告・決算報告、31年度事業計画・予算案等
第41回全国公民館研究会佐賀大会
期日：8月29日(木)～30日(金)
場所：佐賀県佐賀市
全国公民館連合会表彰
期日：8月29日(木)
場所：佐賀県佐賀市
※第41回全国公民館研究会佐賀大会において表彰
第31回全国公民館セミナー
期日：1月下旬
場所：東京都
※本県公連から1名を推薦